

CD クリーナーの効果(15)
ーケーブルへの適用(2)ー

1. 始めに

前報(14)に引き続き、フォノケーブルについて CD クリーナーの処理を行ってみます。

2. CD クリーナーの試聴計画

対象は次のようなシステムのフォノケーブルです。

LINN LP-12 のシステムは次のような再生経路となっています。

LINN LP-12→【アンバランス/バランス変換コネクタ】→バランスアナログ
アキュライザー→ZANDEN Model 1200 (バランス入力)

この経路の LINN LP-12→【アンバランス/バランス変換コネクタ】間の LINN 製フォノケーブルについて処理を行います。なお、このフォノケーブルには自作のケーブルチューナーとアモルメットコアをセットしています。

なお、本システムでは、前報(5)においてアームとヘッドシェルとセンタースピンドルに処理を済ませています。

Garad401 のシステムは次のような再生経路となっています。

Garad401→My Sonic STAGE 1030→Leak Point 1

この経路の Garad401→My Sonic STAGE 1030 間の GRANZ MH-9Bt に付属してきたフォノケーブルについて処理を行います。

なお、本システムでは、前報(6)においてアームとヘッドシェルとセンタースピンドルとターンテーブルに処理を済ませています。

ThorensTD124 のシステムは次のような再生経路となっています。

ThorensTD124→【RCA/RCA 中継コネクタ】→ZANDEN Model 1200
(アンバランス入力)

この経路の ThorensTD124→【RCA/RCA 中継コネクタ】間の LINN 製フォノケーブルと【RCA/RCA 中継コネクタ】→ZANDEN Model 1200 間の Vital Audio 製 RCA ケーブルについて処理を行います。この LINN 製フォノケーブルには自作のケーブルチューナーをセットしています。

なお、本システムでは、前報(7)においてアームとヘッドシェルとセンタースピンドルとターンテーブルに処理を済ませています。

音源は次のアナログ盤とします。これらの盤は事前に CD クリーナーの処理をしておきます。

ドイツグラモフォン 8334/4

ニコロ・パガニーニ 24の奇想曲 作品1

サルヴァトーレ・アッカルド (ヴァイオリン)

Archiv 28MA 0020

バッハ チェンバロ協奏曲集

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

3. CD クリーナーの試聴結果

LP-12 のシステムの上記のケーブルの場合、CD クリーナーの処理を行いますと、以下のような結果が得られました。

パガニーニの奇想曲では、もともと再生が難しい曲ですが、すでにアームなどの処理と盤の処理が終わっていますので、クオリティは十分ですが、さらにフォノケーブルの処理を行いますと、アッカルドのヴァイオリンのボウイングの切れ味が向上し、わずかな胴鳴りの余韻も出てきます。

バッハのチェンバロ協奏曲集では、すでにアームなどの処理と盤の処理が終わっていますので、解像度の良い音を聴かせてくれていますが、さらにフォノケーブルの処理を行いますと、バックのバロックアンサンブルの響きが豊かになり、チェンバロの撥弦の細やかさがでてきます。

Garad401 のシステムの上記のケーブルの場合、CD クリーナーの処理を行いますと、以下のような結果が得られました。

パガニーニの奇想曲では、もともと再生が難しい曲ですが、フォノケーブルの処理を行いますと、高音のきつさが取れ、複雑な擦弦音までリアルに再現されてきます。

バッハのチェンバロ協奏曲集では、フォノケーブルの処理を行いますと、チェンバロとバックバロックアンサンブルの楽器の質感が向上し、通奏低音が明瞭になってきます。試みに My Sonic STAGE 1030→Leak Point 1 間の LINN の RCA ケーブルも処理してみますと、上記のフォノケーブルの傾向がさらに助長されました。

このシステムは、ZYX R100-EX のカートリッジと Leak Point1 の組みあわせであり、まったりとした音で、細かいニュアンスは出しにくいと思っていましたが、盤とアームなどに加えてフォノケーブルの処理の追加で、そういった印象が違ってきました。

ThorensTD124 のシステムの上記のケーブルの場合、CD クリーナーの処理を行いますと、以下のような結果が得られました。

パガニーニの奇想曲では、もともと再生が難しい曲ですが、これまでになかった緻密な音を聴かせてくれていますが、CD クリーナーの処理を行いますと、さらに解像度が上がって、アッカルドのヴァイオリンの細かいボウイングのニュアンスが分かりやすくなります。

バッハのチェンバロ協奏曲集では、すでにアームなどの処理と盤の処理が終わっていますので、これまでになかった解像度がよく勢いのある音を聴かせてくれていますが、フォノケーブルの処理を行いますと、バックのバロックアンサンブルの響きが豊かになり、チェンバロのクリアーさが増します。本システムのカートリッジは SPU Synergy ですが、CD クリーナーの処理で、ある意味 SPU らしい豪快さに加えて細かい表情も出せるようになってきています。

なお、事前の盤の処理においては、前報(4)と同様の効果があったことを付け加えておきます。

4. まとめ

上記 3 システムによるアナログ再生において、フォノケーブルへの CD クリーナーの処理の効果を認めました。アナログ再生については、これまでのアナログ盤、アームなどの構成部品の処理に加え、今回のフォノケーブルの処理の三者一体で大きな効果が得られることが分りました。

以上